

## クルージングの風

灼熱の太陽が真昼の歩道を強烈に照りつけている。そこをしばらく歩くと頭がくらくらとしてくる。水分補給すると汗が噴き出てくるように思えた。シンガポールの歴史地区を見学していた時の事。シンガポール川に架けられたカヴェナ橋を渡ると、微かに川風が頬を撫でひと時の安らぎを与えてくれた。橋の下を覗き込むと小さな観光船が走っていた。乗ってみたい。身体の疲れもあってすぐに決断した。

フラトンホテル前に船着き場がありチケットを購入。河岸には川に飛び込む子供のオブジェに見惚れてしまった。リアリティーな子供の表情、動きを見事に表現した素晴らしい作品であった。その横に巧みな舵取りで接岸した船に乗り込んだ。川風と海風を身体いっぱい浴び、これまでの暑さを忘れさせてくれた。



船上からの景色は目線が変わることで物珍しく思えた。特にここからしか見えないマーライオンの正面顔は迫力を感じた。そしてベイフロントに囲まれた超高層ビル群は圧巻であった。更にシンガポールのランドマークとなったマリーナベイサンズのデザイン性も改めて見事なものを感じた。

船内に目を向けると英国人風の白人女性が一人乗り合わせていた。年からすると50を少し超えた頃であろうか。落ち着いた風貌についつい見とれてしまった。ツーリストであろうか。それも一人で？ 地元の人であればこの船に乗ることはあるまい。あれこれと想像。すると一周の40分はあっという間に過ぎてしまった。言葉をかけるでもなく素敵な女性の出会いであった。

素晴らしいクルージングは夢のような時間を与えてくれた。

撮 2014 年秋

